

アブドッラ デランシ カナダ出身の元キリスト教徒

:

明:
牧 を目指す程に 践的なキリスト教徒だったアブドッラ は、自らの信仰が知性と 理に基いてはいないことに 付き、イスラ ムを するまで 宗教を研究します。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: アブドッラ デランシ

日 20 Jul 2015

集日 20 Jul 2015

私の名はアブドッラ デランシ です。私はカナダ人で、地元の病院で いています。私は 20年前に 婚し、3人の素晴らしい子どもたちに まれています。

アルハムドゥリッラ 、 在私はムスリムです。私はボ ン ムスリムだった ではありません。私は生まれて以来ずっと、プロテスタント教会に属したキリスト教徒でした。

私はペンテコステ派の教会に属した家族によって育てられ、成人すると原理主 派バプティスト教会に入会しました。

信仰深いキリスト教徒として、私は教会の活 に非常に深く わっており、大人の日曜学校などで教えていました。また、教会の 事に当 しました。私は神への奉仕に身を捧げるべく、牧 になることを望んでいました。

私は神学の学位を取得するための 学金を められました。私の目 は牧 、または宣教者となることでした。しかし、私が牧 となるためには、私を含めた家族全 が一生、教会に 献することが求められました。

バイブル カレッジに通い始める直前に、私はキリスト教について批 的な 点から、その信仰に して非常に重要な をしてみることにしました。私は三位一体 について、なぜ神が子を けなければならなかったのか、そしてなぜバイブルで述べられているように、私たちに赦しが与えられるために人 としてのイエスの 牲が必要だったのかについて追求してみることにしました。

私は旧 にある、イエスが 生する以前の 人たちがどのようにして天国において救われているのか べました。私はこれまでの人生で いかけられるべきだったものの、それを怠っていた重大な疑 について熟考しました。

私がキリスト教徒たちから「キリスト教の信仰に基づいた」ものとして得た、それら神学的 に する答えは、あらゆる理性を した、 理的思考とは くかけ れたものでした。

神は、私たちに という素晴らしい祝福をお与えになりながら、その 使を放 するようなことを御望みでしょうか？

キリスト教徒が「ただ信仰を持てば良いのです」と言うときは、人々にそうすることを求めているのです。それはつまり、盲目的信仰です。

私は人生の中で常に盲目的信仰と共にキリスト教を信仰しつつ、疑 を持っていなかったことに 付き、そのことに困惑しました。なぜ私は、それまでそのことに 付けなかったのでしょうか？

バイブルの中から答えを探し出すことはできませんでした。三位一体 が俗 であり、神は かを「救う」ために子やいかなる者の助けも必要などとはしないということに一度 付くと、状 は一 しました。私のキリスト教への信仰は、音を立てて崩れ去りました。私はキリスト教を信じることもできなければ、キリスト教徒でいることもできなくなったのです。

私は完全にキリスト教を 教し、キリスト教に して を抱えていた私の妻も私と一 にそう しました。それは、私にとっての精神的な旅立ちでした。そのとき、私には宗教がありませんでしたが、神だけは信じていました。

私たちはそれまでキリスト教徒としての人生と家族しか知り得ず、当時は非常に困窮な状況に陥りましたが、私は真実を追求しなければなりませんでした。私は宗教について学び始め、それら全てが虚偽であることを発見しました。ただし、イスラームについて知るまでです。

「イスラーム？

冗談だろ？」思い出せる限りでは、私はムスリムを一人も知りませんでしたし、私のカナダの地元ではそれが宗教として扱われることもありませんでした。もちろん、新報やニュースでイスラームが取り上げられていることは知っていました。当時の私にとって、イスラームは考へるものでもありませんでした。私の「宗教レダ」にそれは知られなかったのです。

しかし、イスラームについて少しだけ調べてみることにしました。そして、徐々に多くの本を割くようになり、クルアーンを読んでみることにしました。その素晴らしき真理の示は、私の人生を永久に豊かしました。私は直ちに、イスラームについて可能な限りの情報を集め始め、その研究に没頭しました。

最寄りのモスクは自分の住む街から100マイルも離れたことを知りました。しかし、早速私はファミリーバンに荷物を積み、そのモスクを目指して出ました。道中ではとても楽しんでいたのと同じく、非常にワクワクしていました。私は、自分がアラブ人あるいはムスリムでなくともモスクに入ることは許されるのかどうか、自問していました。

モスク到着後、すぐ、恐れるものは何もないことに気づきました。そこではイマームを始めとしたムスリムたちによる最も温かい歓迎を受けました。彼らは非常に親切でした。ニュースでムスリムについて誤解されるようなことは何もありませんでした。

彼らはアフマド・ディダット著の本をくれ、私はムスリムになれると保証してくれました。彼らがくれたイスラームの資料に、私はすべて目を通しました。地元の図書館にはイスラームに関する本はわずか4冊しかなかったため、私はそれらの資料に非常に感謝していました。

それらを勉めた私は を受けていました。どうして私は い に渡りキリスト教徒だったのにも わらず、真 を知らなかったのかと。私はイスラ ムを信じるようになりました。私は 信しており、改宗を望んでいました。

私は地元の小さなムスリム コミュニティの集まりを 介されました。2006年3月24日、私はモスクを れ、金曜合同礼 の直前、地元のムスリム コミュニティの面前でこう 言したのです。「ラ イラ ハイッラッラ 、ムハンマドッ=ラス ルッラ (アッラ 以外に神はなく、ムハンマドはアッラ の使徒である)。」こうして私はムスリムになりました。その日は、私の人生の中でも最良の日でした。私はイスラ ムを しており、平 々な日々を ごしています。

ムスリムになってからも困 々な状 がありました。私がムスリムになったことを知った知人たちは私を避けるようになったり嘲笑したりしましたし、キリスト教徒の友人たちの大半からは二度と口をきかれませんでした。 から からも されてしまいました。

私はムスリムでいることをこよなく しており、カナダ人の仲 がムスリムになった私のことを 人だと思ったとしても にしません。なぜなら、私の死 、神の前で 世の行いの清算をされるのはこの私自身であるからです。

神こそは力をお与えになる御方であり、イスラ ムへの改宗 、全能なる神はあらゆる困 々な局面で私を助けてくれました。今 在、私には非常に多くのムスリム同胞がいます。

私はアブドッラ という名前に法的に改名しました。この名前をとても に入っています。 在、私は地元の病院で正 として いる最初のムスリム宣教 です。ムスリムの私は、非常に幸福です。すべての称 は神にあれ。

アブドッラ デランシ はMuslimforlife.comの 者です。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1821>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。